

環境経営のマネジメントサイクルをまわす

理想科学は、環境管理の組織体制、制度を整備し、環境目的・環境目標を設定して継続的な活動に取り組んでいます。

Web 詳細は当社Webサイトの「環境への取り組み／環境マネジメント体制」に掲載しています。
<http://www.riso.co.jp/eco/management/system/>

法規制の遵守

2013年度の当社の法規制および法規類の監視・測定、遵守評価の結果、全て遵守していることを確認しました。行政機関

から罰金や行政指導は受けておらず、近隣からの環境に関わる苦情も受けていません。

2015年度 全社環境目的(中期目標)

Web 詳細は当社Webサイトの「データブック」に掲載しています。
<http://www.riso.co.jp/eco/report/>

■ エネルギー使用量(原油換算)の削減(2005年度比)

国内全体(理想科学単体のみ)で

- ▶ エネルギー使用量を23%削減する
- ▶ エネルギー使用量売上高原単位を30%改善する

■ CO₂排出量の削減(2005年度比)

国内全体で

- ▶ CO₂排出量を15%削減する
- ▶ CO₂排出量売上高原単位を20%改善する

国内生産事業所合計で

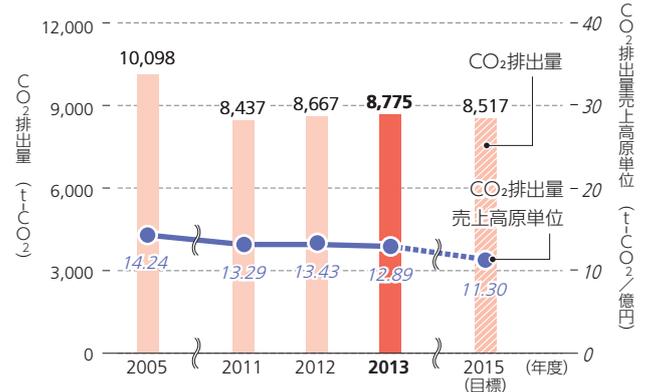
- ▶ CO₂排出量を28%削減する
- ▶ CO₂排出量総製造原価原単位を30%改善する

● 全社(国内) エネルギー使用量および売上高原単位の推移



集計範囲:理想科学単体国内全事業所のエネルギー使用量(委託物流量、社有車燃料使用量は除く)。売上高は単体売上高

● 全社(国内) CO₂排出量および売上高原単位の推移



集計範囲:国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれらに伴うCO₂排出量。売上高は単体売上高

2013年度の実績状況

2013年度も2011年度の東日本大震災による電力供給逼迫を受けて、省電力に重点をおいた取り組みを継続しました。空調機や照明をエネルギー効率の高い設備へ更新し、屋根の遮熱塗装を行うなど積極的な投資を行い効果をあげました。

また、2013年6月に新たな開発拠点として理想開発センターを開所しました。延床面積の拡大や開発設備の増強などにより

電力使用量が増加したため、全社(国内)のエネルギー使用量・CO₂排出量が前年比1%増加しましたが、売上が好調だったことから、2012年度と比較するとエネルギー使用量売上高原単位で2%、CO₂排出量売上高原単位で4%改善しました。今後もさらに環境負荷の低減に向けて活動していきます。